

巻頭のご挨拶

一般社団法人 北海道林産技術普及協会
会長 高橋 秀樹



皆様 明けましておめでとうございます。
平成25(2013)年の新春を会員皆様とご一緒にお慶び申し上げます。
また日頃より当協会の運営に対し、ご指導ご協力を賜り誠にありがとうございます。

今年の干支は巳（み）＝ヘビ年であります。龍や虎のように勇ましくもなく、ウサギや羊のように可愛くもなく、むしろ気持ち悪く、毒も持っているので恐いし、ある意味、もっとも人に嫌われている動物と言えます。

キリスト教では蛇はアダムとイブ（最初の人間）を「たぶらかし」た悪魔の手先とされています。しかし日本では古来より豊穰神（ほうじょうしん）＝豊作の神、天候神として崇められてきました。祭祀（さいし）の字に巳が使われているのは、蛇は正に自然の神だからであります。

また蛇は脱皮をします。
脱皮こそ「革新と再生」の象徴であり、企業や研究機関が日々めざすところでもあります。

科学・研究の分野での2012年の最大の快挙は京大の山中伸弥教授がiPS細胞の開発でノーベル賞を受賞したことです。この細胞は無限の可能性を秘めております。将来的に難病を治すのに役立ち、新たな薬の開発や人工的に臓器を作ったり「再生したり」できるのです。

同じく木材も無限の可能性があると思います。

①再生可能で持続的な素材であります。 **植えて・育てて・伐って・使って・最終はエネルギー**になります。このサイクルを上手く機能させれば、人類にとって最も頼りになる素材となるでしょう。

②林業試験場は「植えて・育てて・伐って」までを担い、林産試験場は「使って」「エネルギー」を担当しています。

③大津波による福島原発破損の経験から、核エネルギー＝原発から様々なエネルギーに替わっていかざるを得なくなった日本にとり、自前で調達できるのは木材であります。
木材エネルギーの効率を上げる、使いやすくするなどの研究を林産試験場は担っています。

④木材は人類にとって無害で健康、優しい素材であり、日常生活を営む住まいにもっと利用すべきです。木材利用の促進を林産試験場は担っております。

⑤植えて・育てて・伐って・使って・エネルギーにしてという理想のサイクルは必ずしも上手く機能しているとは言えません。

それには膨大なお金が必要であり、組織間の連携が必要です。さらに木材の需給バランスや円高による国産材価格の低迷などにより、サイクルが分断されているからです。

これは**地球環境を守る、人間が人間らしい生活ができる**という2点のみを目差すならば、人類の英知で解決できるものと信じます。

さて今年是一般社団法人・北海道林産技術普及協会が昭和28(1953)年に設立されてから60年の記念の年であります。林産試験場も設立から63年が経っており、共に還暦を迎えた訳であります。

4月19日（金）当協会の総会時に記念講演と60周年のささやかなる式典を考えております。現在60年DVDを制作中でございます。

記念講演は北海道立総合研究機構理事長で、元北海道大学総長の**丹保憲仁**さまのお話を予定しておりますので、多くの皆様のご出席をお願い致します。

今年も「北海道立総合研究機構・森林研究本部・林産試験場」と民間企業との架け橋としての仕事や木材普及活動をさらに活発化させる所存でございます。

本年も皆さまのご支援をよろしくお願い致します。